

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年2月21日

事業所名 デイ支援センターみんなの力

		チェック項目	はい(%)	いいえ(%)	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	60	40	少人数でのより細かな支援を行なうため、クラス編成を行ない部屋も分けて活動を行っている。	基準はクリアしているが、より良い支援のためには不足していると思います。→利用定員が適切になるよう曜日固定にし、個の発達に合わせて利用日の増減を毎年行なっていく。
	2	職員の配置数は適切である	40	60		・個別対応が必要となった場合に職員数が足りないと感じることがある。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100	0		
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	80	20	定期的に会議を開き話し合う時間を作っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100	0	アンケート結果をもとに職員で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	80	20		・ホームページで公開予定。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	100	0	改善に向けての話し合いを行ない、共通実践している。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	75	25		・コロナウイルス感染予防のため、研修の機会は減っているが、zoom等で参加できるものには積極的に参加している。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	80	20	毎年行ない、計画作成をしている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	80	20	毎年、年度始めに保護者にアセスメントシートを記入していただき子どもの状況を把握している。	スタッフ全員が目を通した上で支援にあたるよう情報の共有を行う。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100	0	年間・月の計画を立て、細かい日案を作成している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100	0	繰り返しの活動の中にも変化を加えながら遊びの幅を広げている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100	0	「静」と「動」、「個」と「集団」を意識して支援を行っている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100	0	個別指導(言語指導)については担当職員と話し合い作成している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100	0	日案を見ながら確認を行っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100	0	振り返りを必ず行ない、お互いが気付いたことを出し合っている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	80	20	遅くとも翌日には記録の入力を行ない、相互チェックを行っている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	80	20	年2回実施している	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100	0	定期的にガイドラインを読み直し支援にあたっている。		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100	0	児発管を中心に参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100	0	年度初めに学校を訪問し、放デイについてお話しさせていただき協力いただいている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	60	40	保護者を仲介し、必要に応じて連絡をとる場合がある。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100	0	児童発達支援から継続利用の子どもに関しては常に情報を共有している。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	60	40		該当者なし。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	80	20	常に連携を取り、必要があれば療育の様子を参観したり療育に携わったりしている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	20	80		お子さんの特性や発達を考えると実施は難しいが、今後検討していきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	80	20	他の事業所・他機関との情報の共有を行っている。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100	0	連絡帳だけでなく、送迎の際に子どもの状況を伝えている。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	0	100		コロナウイルス感染拡大防止の観点から、実施を見合わせている。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100	0	契約の際にさせていただいている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100	0	相談支援員と連携を取り丁寧に対応させていただいている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	75	25		・コロナウイルス感染拡大防止のため、開催を見合わせている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100	0	報告・連絡・相談体制を整え、児発管が保護者の窓口となり対応している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100	0	毎月、お便りを発行している。	
	35	個人情報に十分注意している	100	0	個人情報媒体の持ち出しを禁止している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100	0	配布物へのルビや顔を見ての対応に心がけている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	75	25		・以前は地域に向けて秋祭りを開催していたが、コロナウイルスが流行してからは見合わせている。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100	0	防災訓練時の様子を伝えたり、感染症流行時期にはお便りにて予防を呼びかけている。	センターとしての指針はその都度お伝えしている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100	0	年2回の総合防災訓練の実施	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100	0	内部研修の実施	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100	0		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100	0	給食室との連携	・アセスメントや診断書を職員が共有している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100	0	医療安全対策委員会を月1回実施	・全職員が共有できるようにしている。